

# この旅も我が人生の1ページに刻まれる

1999.5/22-23



## メンバー

加藤一雄	51才
河本 博	48才
大塚賢一	44才



Climb the length of the Central Alps  
中央アルプス縦走

天候  
晴れ

## 中央アルプス縦走

5/22 ~ 23 晴れ / 晴れ

### 登山計画書

#### メンバー

加藤一雄 51才 河本博 48才 大塚賢一 44才

#### 22日

3時加藤マンション出発---8時駒ヶ根インター---バス・ロープウェイ

9時千畳敷着---三ノ沢岳 2846.5m---宝剣岳 2931m---宝剣山荘 17時着(素泊り)

#### 23日

7時宝剣山荘出発---木曾駒ヶ岳 2956.3m---中岳 2925m---千畳敷へ下山---ケーブル・バス---帰路 16時

#### 装備

アイゼン・ピッケル・フリース・ゴア雨具又は防寒服・手袋厚薄・サングラス・着替え・ラーメン用鍋・カップ・他

#### 共同装備

加藤(ガス・コンロ)大塚(ツウエルト・ラーメン3用鍋)

#### 食料(各自)

ジフィーズ2・ラーメン2・パン・コーヒー等・ウイスキー・ビール・つまみ



5/22 快晴

#### アイゼンを 千畳カールに 食い込ます



「河本さん、後ろに富士山が見えるよ〜」 「そんな振り向く余裕ないワ!」 と、この会話でもわかるように初めて登山靴を履いてのアイゼン、ピッケルをもつての雪上の斜面登行。この千畳敷カールは、彼は少々おっかなびっくりで口数も減り、緊張を隠せない様子であった。それも無理はないこのカールは斜度30度くらいはあるのだから・・・ましてやその斜面での装備変更なのだから、そこでザックを降ろして足場を確保してのアイゼン

装着はいささか初心者には無理難題があったかもしれない。

しかし、そこは我がリーダー加藤氏はおかまい無しである。「河本さん、気を付けてよ！、滑り落ちたら見えない所まで滑って行ってしまうから・・・」この言葉でよけいにビビるのである。案の定緊張してしてアイゼンを左右逆に付けていた、「それ反対やで～、深呼吸して落ち着いて！」、「・・・」

### 『初登山

雪で往生

河本氏』



まあ加藤氏も、GWウイークの北アルプスから少々おいと間だったので、うれしさを隠せないのはいざ仕方のないことではあるが・・・。私はその間に氷ノ山、白山山スキーと遊びまくっている。

このカールはゲレンデスキーヤーが元気に板を担いで我々と同じく登って来ているのには感心である。

40分ほどでこのカールも登りきると、今までの緊張がほぐれたのか、「こんな斜面ばかりやったら、こんなんやったら来んほうがよかったと思っていたら、ちゃんと稜線に出るんやったんや！」と、いきなり河本氏が勢いよくしゃべりだした。やっと本来の彼のやさしい顔が戻ってきた。

10:05 2795m 8度 小休止。

千畳敷カールを登りきり稜線に出て装備変更、アイゼンを外す。

こちよいい汗をかき、それもこの気温で、適度の風もあるのですぐに引いてしまい、見上げれば雲一つ無い青空で何とも素晴らしい登山日よりである。(まあ、天候不順であれば来ていないのだが・・・)

この稜線からでも360度のパノラマである。南東には南アルプス連峰、農鳥岳の後ろにでっかく聳える富士山、北に宝剣岳・駒ヶ岳、北西に御嶽山、その遙か後ろに白山が見えるのだが今日はもやってみえない、そして今から行く南西の三ノ沢岳の素晴らしい稜線、そしてピーク。もう心の中はハッピー満開である。

### 『踏み抜きで

眼前なるが

一步出ず』



稜線沿いを一步一步壺足で進んで行くのだが、好天の春先とあって下からハイマツが今にも顔を覗かせようと、少ない残雪を歩めばこれが股下までの踏み抜きとなり、前進するのに非常に神経を尖らせなければ前に進まないのである、この三ノ沢岳のピストンは私が先頭をきっていたのでこれが今回で一番神経を使い、体力を消耗したのである。

11:40 2710m 17度 大休止 昼食タイム。

稜線歩きの途中で程良く体力もい消耗しておなかもへってきたので、恒例のラーメンタイムである。



しかし、本当に素晴らしいお天気で、昼寝をしたくなってくるほどである、・・・あっ、あれ～、河本氏は寝ころがったと思いや、一分もしない内にイビキをかいて夢見心地である、相当に緊張していたのであろう。

体を密着しないように・・・、しかし彼は怖がらないのでなんなくクリアーして登っていく、楽しんでいるのはさすがである。



13:06 2846m 12度 三ノ沢岳頂上。

何度も言うようにいい天気で最高である。この稜線は、全くトレースも無く、まただ～れも我々の後を来ている様子もない。ホントに静かそのものである。前序したよう

に素晴らしい360度の展望はいうまでもない、おまけに乗鞍岳の向こうに穂高連峰までも顔を出してきた。

目に入るのはハイマツの緑、ダケカンバの金色、白い雪、黒い岩陵、空の青といった目に写るのは自然色のみ調和されていて目にも大変に優しい、こういう自然のカラーと同居していると近眼などなるすべも無いだろう。大自然と同化できる空間である。

### 『岩登り

緊張する

宝剣岳』

15:37 2895m 10度 宝剣岳分岐。

今から80度以上の岩陵登りである。「河本さん、3点支持でゆっくりとあまり岩に



16:32 2931m 9度 宝剣岳頂上。

山頂には10人ほどの初心者のパーティーがいてしょうもない所でザイルを確保して何しとんや?・・・と言いたくなるほどビビって降り降りしている、ほんとに迷惑きわまりない。もっとそれより体力を付けて来いよ!、と言いたくなるほどである。その点、我々には兵庫の夢前に雪彦山という名峰があるのでそこでトレーニングをすることが出来るでのありがたい。その一般ルートをクサリを使わずに上り下りすれば相当の緊張感と三点支持の要領がわかっていい練習になる。現に私の娘の舞と明日香は私の指示でそれをこなしている。

16:44 2900m 4度 宝剣山荘到着。

やはり16時を回れば気温もぐ～んを下がって雪も今まで緩んでいたのが締まってきている。今夜は放射冷却で氷点下になるだろう。

### 『素泊まりで

明暗クッキリ

部屋の割り』

部屋の名は「ダケカンバ」と、美しい金色の木なのであるが、なんと部屋にある一つの窓は雪の覆われて蛍光灯が無ければ真っ暗の部屋である。廊下をはさんでの部屋は明るく日も射してしるのに・・・えらい違いであった。やはり一泊二食と素泊まりの差がこんな所でにでもでいた。しかし、今夜の泊まり客はみんな20人足らずと少なく、我々素泊まり派でもストーブの真横で食卓が許されていたので快適であった。

夜、トイレに起きて夜空の星を楽しみにしていたが、雲が一面に出ていて何も見えなかった。このところ、白山でもそうであったが、満

天の星やミルキーウェイにはお目にかかっていないのが残念である。

5/23 雲一つ無い快晴

5:30 2度 起床。

外に出れば日はすでに上がっている状態である。この山荘はちょうどコルに当たるので景色は今一なので今朝はゆっくりと寝ていた状態であった。

7:07 4度 今から駒ヶ岳方面に登頂開始である。

行きは中岳をトラバースして行くが、そのコースは「危険、初心者不向き」と看板である。しかし、おかまいなしに前進する。やはり看板どおり要所々々は夕べの放射冷却で完全にアイス状態になっていて「河本さん、そこは右足じゃなく左足を置かな落ちるで！」と言いながら朝からスリル満点であった。

『朝日浴び

展望豊か

駒ヶ岳』

7:45 2956m 8度 木曾駒ヶ岳山頂。

少々もやっちはいるが、やはり360度の展望である。御嶽山が特に素晴らしく浮かんでいる。しかし静かである。山頂

には我々のみである。

8:20 2890m 8度 中岳頂上。

これより、宝剣山荘を取り巻きいよいよ千畳敷カールの急斜面をアイゼン着用で降下である。出だしは40度以上はあろうかと思われる斜面である。来年はきっと板をもってここを滑り込もうと思っている。

河本氏は、やはり少々おっかなびっくりで腰が引けているがクーロワールの間の急斜面を過ぎればルンルン気分である。

しかし、無謀にも老夫婦がアイゼン・ピッケル無しに登ってきてい

るのには「何考えてんのやる？、ああいう軽装備で来るから遭難騒ぎになるんや！」と・・・中高年の登山ブームにもあきれてしまう事が多々あるのも事実である。

9:30 2625m 13度 千畳敷駅到着。

今日は日曜日とあってグレンデスキーヤーやボーダーが元気にロープトゥを利用してワイワイと滑っている姿はなんともあどけないものである。

ロープウェイ、バスと乗り継ぎ帰路に着き、姫路現着は16時であった。こちらの天候は曇っていた、明日からは雨との予報であった。

この2日間は我々にとっては最高のご褒美であった。

『好天に

中央アルプス

恵まれし

再度の出会い

楽しみに待つ』

